



心がときめく瞬間。皆様は最近ありましたか？ 妙光は、今朝ありました。

山門正面の日蓮大聖人様の尊像の土台の足元に黄色のミニ水仙がかわいく咲いていました。毎年同じ場所に顔を出してくれるので、心待ちにしていました。その後くるっと境内を回ってみると、寒アヤメ、クリスマスローズ、水仙、ムスカリが満開だったり、咲く寸前だったり。花達のおかげで心がウキウキワクワクしてきます。

悩みごとがあったり、イライラしている時は、そのことばかりに心が奪われて心をときめかせることが出来ないかもしれません。逆にそのような時こそ自分の身の回りの小さなときめき探しを試してみるのも思考が変わっていいのかもしれない。

…お坊さん妙光的には、そのような時は合掌して静かに南無妙法蓮華経ってお唱えするのが一番だとオススメ致します。

この前、知り合いの人が

「妙光さんは、心がつかい時とか気分転換はどうしているんですか？ お料理とかですか？」

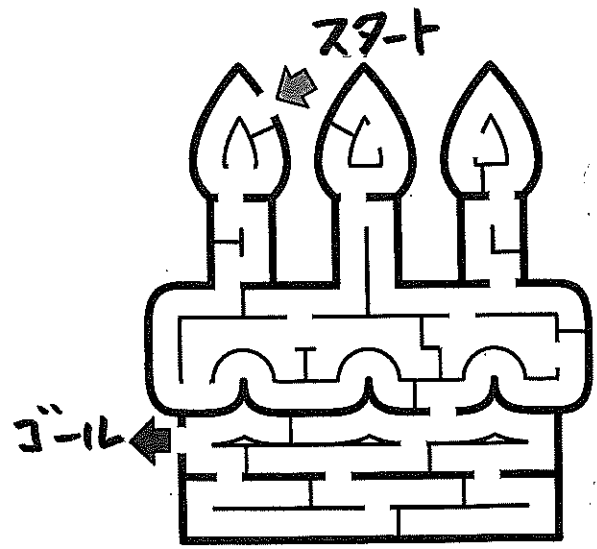
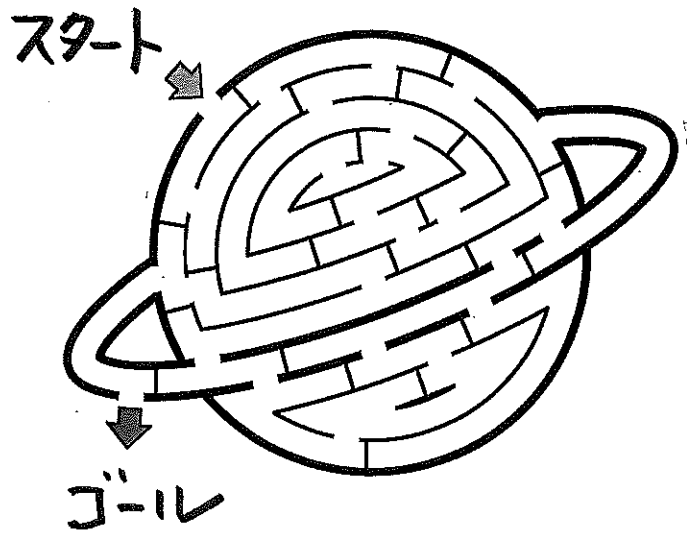
とたずねられました。その方が、お帰りになられた後じっくり考えてみました。

どんな座に落ちる位、もう死んでしまいたいと思う位に落ち込んだ時、かむしらに法華経とお題目を唱えて仏さまの御手におすがりしています。

普段のちよとした不安がある時も(例えば車の運転前とか)南無妙法蓮華経ってブツブツ唱えています。



迷路に挑戦!



前回のお年玉プレゼントクイズの答え

① 九頭のトラが乗っている乗り物は？
答え…トラック

② いつも文句ばかり言っている動物は？
答え…ウシ (モーモー) またはブタ (ブーブー)

③ お茶はお茶でも子どもが喜ぶお茶は？
答え…おもちゃ

④ 食べると安心するケーキは何？
答え…ホットケーキ

⑤ 口から出てくる「くび」って何？
答え…あくび

陽だまり法話より

『お寺って敷居しきいが高いのよねエ』って思われた事、ありますか？余談ですが…「敷居が高い」は本来、不義理や不面目なことがあって、その人の家に行きにくい、という意味。なので言い換えるならば、レベルが高い・手が届かない・高嶺たかねの花・雲の上の・分不相応などになります。法華經の第四章の中に説かれている長者ちやうぢやうぢい窮子の譬たとひえ話に、幼い頃に家出し五十年以上、その日暮らして困窮こんきやう生活の子ども。一方、大富豪だふふで大豪邸たいごうていに住んでいる長者である父。子どもは、たまたまその豪邸の門の前にやって来た。しかし、子どもは父の顔を覚えておらず、そこが自分の父親の家だとは思ってもない。逆に父は何十年たっても子供の事を片時も忘れることはなく、ひと目で我が子とわかる。子どもは「こんな大豪邸、大富豪の人とは分不相応、恐れ多い、関わりたくない、さつさと立ち去ろう」と思うのです。長者は仏さま（お釈迦様）、子どもは私たちを表しています。仏様は常に私たちを助けてあげたい、救ってあげたいと思ってくださっているのに、私たち自身が、仏様は雲の上に存在、仏様の教えはレベルが高く難しい、お寺は格式が高い、と感じているのかもしれない。お寺の門はいつでもオープンしています。

右の法話は、「妙法蓮華經 信解品第四」の左記の經文からのものです。

「窮子見父 有大力勢 即懷恐怖 悔來至此 竊作是念 此惑是王 惑是王等 非我傭力 得物之处 不如往至貧里	うだいりきせい そくえくふ けらいしし せつきせなん しむくぜおう わくぜおうとう ひがやうりき とくものじよ ふによおうしびんり
肆力有地 衣食易得 若久住此 或見逼迫 強使我作 作是念已 疾走而去 時富長者 於師子座 見子便識 心	えじきいとく にやつくじゅうし わっけんひつぱく じょうしがせ させねんに しつそつに じふちやうぢや おししぎ けんしべんしき しん
大歡喜 即作是念 我財物庫藏 今有所付 我常思念此子 無由見之 而忽自来 甚適我願 我雖年朽 猶故貪惜	だいかんぎ そくせくぜねん がざいものくら こんぬじよふ がじょうしねんしし むゆけんし にこつじやい じんじやくががん がすいねんく ゆごんぢやく

（書き下し文）窮子、父の大力勢あるを見て、すなわち恐怖を懐いて、ここに來至（らいし）せることを悔ゆ。ひそかにこの念をなさく。「これあるいはこれ王か、あるいはこれ王と等しきか。我がゆう力して物を得（う）べき処にあらず。しかし貧里（ひんり）に往至（おうし）して、し力地（じりきぢ）と（ころ）あつて衣食得やすからんには。もし久しくここに住せば、あるいは逼迫せられ、強いて我をしてなさしめん。」この念をなしおわつて、疾く走つて去りぬ。時に富める長者、師子の座において、子を見てすなわち識（し）りぬ。心おおいに歡喜して、すなわちこの念をなさく、『我が財物・庫藏、今付する所あり、我れつねにこの子を思念すれども、これを見るに由無し。しかるをたちまちに自ずからきたれり。はなはだ我が願いに適（かな）えり。我れ年朽ちたりといえども、なお貪惜す。』